

問題 2021年佐賀県公立入試より

第二次世界大戦後の日本の経済と社会の様子について調べ、下の図にまとめた。図の【新聞記事】と【グラフ】に当てはまるものを【資料1】と【資料2】からそれぞれ選び、その組み合わせとして最も適当なものを、あとのア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

図

【資料1】 I

II

※出題の都合上、文字を一部消している。

資料2 a (%) (米ドル)

b (%) (米ドル)

※1バレル(約159リットル)あたりの価格
(帝國貴院ホームページ、ENEOSホームページより作成)

選択肢 ア I・a イ I・b ウ II・a エ II・b

★解説

1 問われていることと条件の確認をしよう。

問われていること⇒【新聞記事】と【グラフ】に当てはまるものとして適当な組み合わせを選ぶ。
条件 ⇒図にかいてあることを把握し、資料1と資料2から選ぶ。

2 資料を見てみよう。

《図からわかること》

【新聞記事】の前の部分に書いてあることを確認すると「高度経済成長で、国内の産業が発達し、社会問題が発生」ということがわかる。

【グラフ】の部分にかいてあることを確認すると「実質経済成長率と原油価格の推移」と書いてある。

3 答えを導こう。

【新聞記事】は、高度経済成長期の社会問題として、適切な公害問題であるIIの資料を選択する。

【グラフ】は、1973年におこった石油ショックの内容と一致するので、bの資料を選択する。

正解 エ

問題 2021年宮城県公立入試より

あやなさんは、地方公共団体が行っている千吉良活性化の取り組みについて調べるなかで、多くの地方公共団体で人口減少が進んだ2000年以降も、山形県東根市では総人口が増加し続けていたことを知り、資料B、Cを作成しました。東根市の取り組みは、どのような効果を期待して行われたと考えられか、資料B・Cを参考にして簡潔に述べなさい。

資料B 東根市の人口推移(人)

年	総人口	市内への転入者数	市外への転出者数
2000	44,800	2,110	1,855
2003	45,604	2,018	1,958
2006	45,968	2,182	2,080
2009	46,273	2,058	2,024
2012	47,217	2,100	1,869
2015	47,768	2,049	1,915

(注) 総人口は各年10月1日現在のものであり、転入・転出者数は各前年10月から当年9月のものである。
(「山形県統計年鑑」より作成)

資料C 東根市の取り組みの一部

- 1996年 市内中心部に工業団地を増設
- 2000年 第3子医療費の完全無料化
- 2005年 子育て支援センターの開設
- 2008年 未就学児医療費の完全無料化
- 2010年 育児相談の充実
- 2013年 子どもの遊戯施設を整備

(「山形県東根市ホームページ」などより作成)

★解説

1 問われていることと条件を確認しよう。

問われていること ⇒ 人口減少対策で行った東根市の取り組みの効果の期待。
条件 ⇒ 資料Bと資料Cを参考にする。

2 資料を見てみよう。

資料B ⇒ 東根市の人口推移を示している。資料から市内への転入者数が市外への転出者を上回り、総人口が増えている。

資料C ⇒ 東根市の取り組みの一部を示している。工業団地の建設や育児に関する施設や制度を充実させている。

3 資料を踏まえて答えを導こう

人口減少対策の取り組みの結果として《転入や定住を促進することで総人口が増えている》
総人口増加を促すために《就業場所の充実や子育て支援の施設や制度を充実させ、暮らしやすさを高めている》

正解

工業団地の増設によって就業場所を増やしたり、子育て支援策を充実させたりすることで、暮らしやすさを高め、転入や定住を促すこと。

★POINT

① 近年の入試問題は設問が長文化しています。問われていることと条件にしっかり印付けをして問題を正確に把握しましょう。

② 資料を活用した問題では、資料が答えのヒントになります。資料から分かることを踏まえて、「どんなことを一番伝えたいのか」という視点で答えを考えましょう。